

# 白い泡に包まれた卵



**2008年4月19日**、岩舟町の田んぼの土手の斜面で、『白い泡に包まれた卵』を見つけた。「シュレーゲルアオガエル」の卵塊である（写真中央）。

**白い泡**というと、水辺の樹木などに卵を産む「モリアオガエル」が有名だが、「シュレーゲルアオガエル」は、この辺りでも、山沿いの水田などに、普通に生息している。ただし、土の中などに隠れているため、その姿を見ることはあまりない。産卵時には、オスとメスがペアになり、田んぼの畦などの土の中に泡状の卵塊を産む。卵白をかき混ぜるとメレンゲができるように、体から分泌する粘液を足でかき混ぜ、泡状にした中に卵を産むのだ。卵は約1週間で孵化し、雨が降ると、幼生は泡とともに近くの水中に流れ出る。

**30日**、見つけた卵塊を採集し、生物室内で飼育したところ、3日後の22日の朝、何匹かの幼生が孵化していた。しかし、体全体の色は白く、腹には大きな卵黄が付いている（写真右上）。白い泡の中では、色が黒いと目立ってしまうからなのか、また、大きな卵黄は、雨を待つ間の栄養分と関係があるのだろうか。不思議である。実際に、泡から離れて生活し始めると、徐々に、卵黄が目立たない黒い姿に変わってきた（写真右下）。

**シュレーゲルアオガエル**（*Rhacophorus schlegelii*）という種名は、江戸時代、シーボルトがオランダに持ち帰った標本を研究した博物学者「H・シュレーゲル」（ライデン王立自然史博物館長）にちなみ、命名されたものである。つまり、「シュレーゲルさんのアオガエル」といった名前なのであるが、緑一色でツルツとした姿（写真左上）は、「カエラー」（いわゆるカエル愛好家）たちの間では、いつも一番人気である。

**県内では**、5月のゴールデンウィーク中に田植えをする所が多いが、田んぼを耕したり水を入れたりすると、土の中に産み付けられた卵塊が水面に浮かんでくることがある。普段、このカエルの姿を見ることは難しいので、山沿いの田んぼで、ぷかぷか浮かぶ『白い泡に包まれた卵』を見つけたことができれば、かなりラッキーかもしれない。

